

○事業名：アニメ脚本と脚本家のデータベース構築

○団体名：一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

○事業概要

1. アニメ脚本等の現物に関する事業—アニメ脚本資料の散逸防止の必要性

日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムでは、平成 17(2005) 年から放送番組の脚本を中心に収集し、分散保存される資料を検索する趣旨のもと脚本のデータベースを作成しインターネット公開している。収集した資料は 11 万点を超えるが、その中にアニメーション（以下アニメとする）の脚本や関連資料が 1 割以上含まれている。アニメ脚本に関してはメディア芸術分野の資料と共に保管およびデータベース化される可能性を考え、平成 29(2017) 年度より「アニメ脚本と脚本家のデータベース構築」事業を展開している。

脚本はアニメ制作の設計図となる貴重な資料であるが、長期保存を予定していないため紙質が悪く、ガリ版印刷のものも含まれ、インクの退化など劣化が激しい。出版物ではない脚本は、発行部数が少なくスタッフや制作会社を中心に保存されるのみで、転居などにより散逸消失する危険が大きい。現物収集およびデジタル化作業は必要かつ緊急性を有する。

現在までに収集したアニメ脚本・資料は 9,764 件（特撮脚本は除く）。資料にはコピー台本、ポスター、絵コンテが一部含まれている。作品数は約 580 タイトルに及ぶ。

本事業では、収集した資料の書誌情報を「アニメ脚本と脚本家のデータベース」として Web で公開している。<http://animedb.nkac.or.jp/>

2. アニメ脚本資料の劣化・消滅防止に関する事業—デジタルと証言保存の必要性

①デジタル化保存の必要性

【サムネイル用・表紙のデジタル化例】



昭和期の脚本は紙質が悪いため劣化が激しく、黄ばみ、酸化、カビ跡も多い。ガリ版印刷のためインクが退化する危険もある。

脚本の中には、企画意図や主題歌の歌詞が記載されているものもある。

一方、キャストやスタッフの記載は少なく調査が必要となる。

絵コンテや直しの書き込みがある脚本も多い。

②脚本家の証言録取の緊急性・著作権典拠の必要性

アニメ史の継承のため、テレビアニメ草創期の脚本家やスタッフからの証言は大変重要である。作家の高齢化に伴い、貴重な証言録取、公開は喫緊の課題である。

また脚本家は複数の筆名を持つ人が多く、筆名から著作権者の特定が困難な場合もある。作品と筆名をデータベース化することは二次利用の際に有益で必要な作業である。



辻真先氏(別筆名:牧 薩次 桂 真佐喜)



鈴木良武氏(別筆名:五武冬史氏)

令和5(2023)年度は大川俊道氏、古怒田健志氏、鷺山京子氏(予定)3名の録取実施。

今年度から視聴の利便性を検討しテロップなどを増やし編集を行っている。



大川俊道氏(聞き手:さらだたまこ氏)



古怒田健志氏(聞き手:小林雄次氏)

3. アニメ脚本データベース構築・発信準備事業—アニメ脚本データベース構築の必要性・緊急性（非常時の文化政策の有用性）

アニメに関する関心は高くデータベース化、国際発信の需要が高まっている。

しかしアニメ動画については、映像、原作マンガとの関係、声優、音楽など権利が複雑に絡んでおりデータベース上での公開が難しい。一方、アニメ脚本については、原作者・脚本家の了承によりデータベース公開が比較的安易である。作品のあらすじは、アニメ作品に携わる脚本家チームに依頼して新たに作成することで権利問題をクリア。データベースの内容については、著作権専門事例を多く手掛ける弁護士・福井健策氏の監修を受けたうえで公開している。

令和元(2019)年10月の台風による川崎市市民ミュージアムの被害のほか、コロナ禍で資料所蔵機関等が閉鎖される非常事態においても、資料のデジタル保存およびオンライン利用による文化発信は有用性が高いと考えている。

本事業の「アニメ脚本と脚本家のデータベース」では、収集した資料の書誌データを Web 公開している。

■収集・管理資料総数：9,764 件（アニメのみ）

特撮やマンガ原作のドラマ・映画脚本は放送脚本として分類し国立国会図書館等で公開中。

■データベース掲載件数 9,955 件（複本除外）。

■作品紹介（あらすじ）

作品紹介文の制作数（日本語）：399 件（令和5(2023)年度：70 件を追加予定）

英訳済：310 件（令和5(2023)年度：91 件を追加予定）

① 脚本の寄贈から書誌公開までの手順

- ・寄贈された台本を種類別に分ける。⇒「放送」「映画」「演劇」「アニメ」など
- ・同じタイトルのものをまとめる。
- ・可能な限り年代順に並べる。
- ・書誌情報データをエクセルに入力。
- ・行先別に管理番号を付けシール添付した中性紙封筒（または OPP 袋）に一冊ずつ入れ、段ボール箱に保管。
- ・入力されたデータは整理後「脚本データベース」に掲載。<http://db.nkac.or.jp/>
アニメ分野は「アニメの脚本と脚本家のデータベース」に掲載。
<http://animedb.nkac.or.jp/>

② 書誌入力マニュアル（他ジャンルの放送脚本の説明含む）

・「分類」

台本：脚本の形式になっているもの

資料：脚本以外（制作発表資料や企画書）

・「メディア」

その作品が放送されたメディア「テレビ」か「ラジオ」を記入。

まれに「映画」や「舞台」もあるので、脚本に記されている

「制作」を見て判断する。

例）フジテレビ→「テレビ」 東宝株式会社→「映画」

・「ジャンル」

書かれている話を役者が演じるものであれば、「ドラマ」と記入。
それ以外の「報道」「ドキュメンタリー」「お笑い」などは「構成」
アニメ脚本の場合は「アニメ」と記入。
ジャンルが「映画」のものは内容を問わず「映画」と記入。

・「サブジャンル」

脚本に「特撮」、「時代劇」と、内容について書かれていた際に入力。

・「枠名」

「世界名作劇場」「カルピス子ども劇場」「木曜ゴールデンドラマ」など

・「シリーズ名」

「アニメ文芸シリーズ」「向田邦子シリーズ」など

・「タイトル」

（仮題）もしくは（仮）と書かれている場合はそのまま記入。

・「タイトルカナ」

タイトルを打つとカナが出る数式がすでに入力されているが、
「運命」を「サダメ」と読ますような特殊な読み仮名がふつである場合は、
「作品情報・備考」の欄に正式な読み仮名をカナで入力。

・「サブタイトル」

「前編」「後編」と分かれている場合はサブタイトル欄に記入。

・「放送回」

連続した回数の台本が1冊の中にある場合は「1～5」、
ばらばらの回数が1冊の中にある場合は「1・3・5」と記入。
週数が入っている場合には「1～6（1週）」と週数も入れる。
「回」や「話」はつけず、数字のみ入力。
回数ではなく、「一夜」「二夜」と書かれている場合も回数として記入。

・「放送日」

年代は西暦で入力。元号で書かれている場合は西暦早見表で確認する。
年月日のいずれかが分からない場合にはその箇所を(?)にする。
全く分からない場合は空欄のままでもよい。

・「放送局」「制作」

「放送局」欄には台本表紙に書かれている放送局名を記入。
「制作」欄には放送局名と制作会社名を両方入力する。

・「作家」「原作者」「原作名」

表紙にない場合は、台本2～5ページくらいに記載されているので、
項目別に記されていた通りに記入。

・「出演」

配役表の俳優名を全て記入。
ナレーションなど特別な役割が書かれている場合には、
欄の末尾に（ナレーション）などの役割をつけた俳優名を記す。
例）（ナレーション）森繁久弥、（語り）加藤道子

・「演出/監督」

表紙にない場合は、台本2～5ページくらいに記載されている名前を記入。

演出ではなく（担当）とある場合のみ（担当）のあとに名前を記入。

・「プロデューサー」

複数名いる場合は「、」で区切って全員記入。

所属会社名は名前の前に入れて「：」で区切る。

「プロデューサー」の記載がない場合は「制作」の名前を記入。

「企画」「統括」「CP」「エグゼグティブプロデューサー」もこの欄に該当。

例）（企画）小山薫堂 （プロデューサー）ABC：小林正太郎 電通：竹田正哉、

・「音楽」

劇伴（ドラマ中に流れる音楽）の作曲者。

主題歌の作曲者は「主題歌」欄に記載。

（音楽プロデューサー）などは「スタッフ備考」欄に記入。

・「美術」

美術・デザイン欄に記載されている人名を記入。

（美術進行）（美術アシスタント）などは「スタッフ備考」欄に記入。

・「考証・指導」

「殺陣」「関西ことば指導」「時代考証」「監修」など、

考証・指導担当スタッフを記入。（稀にキャスト欄に記載あり）

例）（時代考証）天野隆子

・「スタッフ備考」

上記とは異なる「撮影」「照明」「カメラ」「音響」「美粧」「小道具」

などの担当者をすべて記入。複数名いる場合は「、」で名前を区切る。

例）（カメラ）西川治、東山一郎、（小道具）間宮次郎、（美粧）大塚晶子

・「主題歌」

曲名、作曲家名、作詞家名、編曲者名、歌手名などをすべて入れる。

例）（主題歌）今夜はオールライト、（作詞）売野雅勇、（作曲）館ひろし

（編曲）神林早人

・「作品情報・備考」

表紙に「タイトル」「枠」「シリーズ」に該当しない内容を記入。

例）「芸術祭参加作品」「開局 50 周年記念番組」など。

タイトルやサブタイトルに手書きで訂正がある場合には、その情報も記入。

例）サブタイトル手書きで「〇〇〇〇」と訂正など

■その他注意事項

- ・まったく同じ台本が2冊以上あった場合、一冊分を入力した後、同じ情報をコピーして冊数分入力して「状態」欄に「W」と入力。
- ・台本に写真、住所、電話番号等が記されたメモが多数挟み込まれているが、台本の内容変更や撮影指示に関する内容以外のものは台本から外して保管。
- ・データ入力作業で知り得た情報（特に個人の電話番号）を写し取ったり、ブログ、ツイッター等で拡散したりしないことを説明する。

③ データベースへのデータ掲載状況

項目	記入例	Web 公開
管理番号	1 資料ごとにナンバリング。外袋のシールに表示される。	○
旧管理番号	入力時に一時的に付与。分類後に新しい管理番号を付与。	×
合本	合本製本された脚本にマーク	○
分類	台本または資料、原稿	○
メディア	ラジオ、テレビ、映画、舞台、レコード・CD・カセット、ビデオ・DVD、web 配信、ゲームなど発表された媒体	○
ジャンル	ドラマ、構成、アニメ、映画、海外ドラマ、海外構成、人形劇、演劇、海外アニメ、海外映画、CM など	○
枠名	連続テレビ小説、大河ドラマ、金曜劇場、火曜サスペンス劇場、東芝日曜劇場など、固定された放送時間枠の名称	○
シリーズ名	シリーズ・街、ドラマ・人間模様、6 月の花嫁シリーズなど、内容に共通性のある番組群の名称。	○
タイトル	番組の表題	○
タイトルカナ	番組表題のカナ書き	○
タイトル英語化	ローマ字で記載するにとどまり、翻訳には至っていない	○
サブタイトル	副題。各回につけられた題名。	○
台本バージョン	初稿、二稿、決定稿、改訂稿など脚本・台本の稿数。	○
劣化	紙の酸化など劣化が激しいものに○	×
状態	表紙の外れ、紙の破れ、コピー台本、規格外の大きさなど記載	×
放送回	台本に記載している放送回	○
放送日	台本に記載された放送日	○
放送局	放送局	○
制作	放送局の他、制作会社など	○
作家名	脚本家、放送作家名	○
原作者	台本に原作、原案の記載があるもの	○
原作名	原作題名	○
出演	H28 年まで冒頭の 3 名記載。H29 年より全員記入	○
作品情報・備考	提供会社名、芸術祭などの受賞歴や、タイトル・サブタイトルが実際の放送と異なっている等、項目外の作品情報	×
寄贈元/属性	寄贈者／寄贈者が作家、制作者、会社などを記載	×
寄贈日	受け入れ日	×
権利処理	寄贈確認の書類送付の有無	×
個人情報	個人情報の有無、被覆作業の有無	×
演出/監督	演出、ディレクター、監督等	○
プロデューサー	プロデューサー、制作、企画	○
音楽	劇伴の作曲者、音楽監督等	○
美術・デザイン	美術・デザイン担当者。美術関連スタッフはスタッフ備考に記載	○
考証・指導	時代考証、殺陣指導等	○
スタッフ備考	上記以外のスタッフをすべて記載	○
主題歌	台本に記載されたもののみ	○
尺（分）	放送された時間数（30 分、2 時間等）	○
放送時間	放送時間帯の表示（8:15～8:30 等）	○
あらすじ	台本に記載のあるものは転記。 その他、ライターに依頼し 600 字～1000 字程度作成	○

④ データベースの改変

令和元年(2019)年度、英語版サイトを公開。令和 3 (2021) 年度、モバイル版の公開を行なった。令和 4(2022) 年度は、アニメのほかドラマ作品の中から特撮作品を抽出しデータベースに追加。脚本家のプロフィールページを追加した。令和 5 (2023) 年度は作品のジャンルを付与し、より検索しやすいように改変を行っている。そのほか、インタビューについては書起しを順次追記する(2 月末に公開予定)。

■英語版サイト例

サイトの右上の「日本語」「English」の選択ボタン日本語と英語の切り替えができるようになっており、英語版も公開している。Wikipedia を自動的に表示する機能をつけている。

【詳細ページ/日本語】

アニメ脚本と脚本家のデータベース

検索するキーワードを入力

☒ 同義語を含む

[トップへ戻る](#)

サイボーグ009
太平洋の巨艦

作家	辻真先
原作	曾根王
原案	石森章太郎
放送日	[1968/5/21]
放送回	16
演出/監督	荒川哲郎
かな	サイボーグ009
ローマ字	SAIBOGU009
分類	台本
メディア	テレビ
ジャンル	アニメ
収録先	倉庫保管中

あらすじ

『サイボーグ009』 天才漫画家、石ノ森章太郎が1960年代に『少年サンデー』に連載を始め、人気を博し、その後、東映動画によって映画版(モノクロ)として制作されたのが映画化される。物語は不良少年、島村ジョーが少年院から脱走した時、世界征服を企む『ブラック・ゴースト団』によって捕らえられ、サイボーグとして改造される。『ブラック・ゴースト団』が改造したサイボーグは全員『00ナンバード』と呼ばれ、ジョーを含めて全員で9名。高も人種もババ(バ)に選出され、それぞれに異なる能力を授けられる。彼らが改造された目的が世界征服と知ったことで、自分たちが犠牲として扱われる事に反抗を感じ、ギルモア博士を筆頭に『ブラック・ゴースト団』から逃げ出し、世界征服を思い止める事を決意する。『00ナンバード』のサイボーグ戦士は、自分たちが機械なのか、人間なのかという苦悩を抱えながら、『ブラック・ゴースト団』と戦いを続けるストーリーが冒頭の共通のテーマで、その後はテレビシリーズ化され、リメイク版も数多く作られる。物語の決着を得た。原作者である石ノ森章太郎が亡くなり、現在も未完の大作として、各時代に合った方法で映画化されたりノベライズ化になったりと様々な媒体で現在に至るまで繰り返し制作されている。今後新しい形でこの作品は常に世の中の記憶には必ず登場してくるだろう。

Wikipedia

サイボーグ009

『サイボーグ009』（サイボーグゼロゼロナン）は、石ノ森章太郎による日本のSF漫画。

[Wikipedia記事へ](#)

出典: Wikipedia
ライセンス: CC-BY-SA
記事の更新日: 2020/05/18 01:11:55

【詳細ページ/英語】

Anime-Screenplay and screenwriter database

Input search words..

☒ enable synonym

[top page](#)

SAIBOGU009

Writer	TSUJII Masaki
On Air date	[1968/5/21]
Broadcasting times	16
Reading	
Classification	Scripts
Media	TV
Genre	Animation
Transfer destination	Stored in warehouse

Synopsis

Saibogu 009 (Cyborg 009)A remarkably talented cartoonist, Shotarō I shinomori, started to publish the series in Shonen Sunday in the 196 0s, and gained popularity. Later, a movie version (monochrome) pro duced by Toei Oga was cinematized. The story starts when Jo Shima mura escapes from a juvenile detention center, and is converted into a cyborg after being caught by the Black Ghost Group which conspires to dominate the world. All cyborgs converted by the Black Ghost Group are called "Number 00", and there are nine of them including Jo; they are selected from various countries and races and are individually give n different abilities. Since knowing they have been converted into cybor gs for the purpose of dominating the world they feel resistant to being t reated as weapons, so they run away from the Black Ghost Group wit h Dr. Gilmore as a leader, and decide to stop their domination of the world. The story about cyborg warriors numbered 00 continuing to fight with the Black Ghost Group while anguishing over whether they are ma chines or humans appealed to young people and was later serializd f or TV, and many remakes have been made. Before concluding the st ory the original author Shotarō Ishinomori died, so the story is still cin ematized or novelized as an incomplete masterpiece in a way that fits each era. It has been repeatedly produced by various media to the pre sent date. This work will always and surely be remade at turning points in the world in a new form in the future.

*The information in [] is reference information by our group's own survey, and it is not what is described in the original of the bibliography.
*Regarding movies and plays, the description of the broadcast date column is "Publication Date" "Perfor

4. 活用・発信の連携体制による社会的効用

① Japan Content Catalog (JACC®) との連携 / ジャパンサーチへの参加

書誌データは、映像産業振興機構が運営する JACC サーチと連携。JACC サーチを通じ、ジャパ ンサーチにも書誌データの提供公開中。

② 教育活用・社会活用

- ・創作活動を目的とした教育活用(コロナ禍で休止中。今後再開予定) <https://1min.work/> iPad を使って写真や動画を編集し1 分間の映像をつくるワークショップを開催。
- ・高齢者向けの「回想法」として、バラエティ番組や脚本を活用した講座を 2022 年に実施。今後はアニメや特撮資料を活用した講座を検討予定。

③ 関連資料の所蔵機関との連携研究

関連資料を所蔵する施設へヒヤリングを継続実施している。

- ・横手市増田まんが美術館 <https://manga-museum.com/>
- ・アニメ東京ステーション <https://animetokyo.jp/>

・金沢工業大学 PMC（ポピュラー・ミュージック・コレクション）ライブラリーセンター
<https://www.kanazawa-it.ac.jp/shisetsu/collection.html>

④現物の展示公開

■放送ライブラリー（横浜）の主催によるミニ展示 <https://www.bpcj.or.jp/>

展示スペースに、テーマを決め3か月ごとに二十数冊の脚本を展示し、展示作品の説明文を冊子にして配布している。企画展示パネル（下記現在展示中のパネル）を設置。

◎『いざ立て！ 昭和のロボットアニメ!!』（2023年12月～2024年5月まで展示予定）

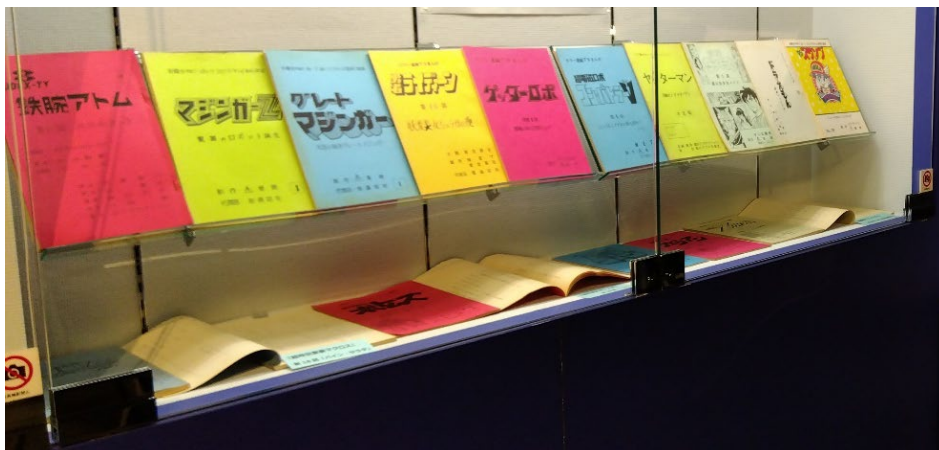
いざ立て！昭和のロボットアニメ！！

日本初のロボットアニメ『鉄腕アトム』の放送が始まったのは1963年1月1日。2023年は「ロボットアニメ」誕生から60年目となる。主人公アトムは、電子頭脳と10万馬力のパワーを搭載しながらも人間と同じ姿形と感情を持ち、人間との共生や差別に思い悩むロボットとして描かれた。同年放送の『鉄人28号』は、アトムとは対照的に“意志も感情も持たない、戦うための巨大兵器”としてロボットを描いた。この“巨大兵器としてのロボット”というコンセプトは、その後の『マジンガーZ』（1972）や『グレートマジンガー』（1974）など、主人公が操縦する大型ロボットに引き継がれ、悪と戦う正義のヒーロー「スーパーロボット」と称された。スポンサーである玩具メーカーは玩具を次々と発売。3機が合体する『ゲッターロボ』（1974）は玩具では合体不可能なデザインだったため、『コンバトラーV』（1976）は玩具上でも合体・分離が可能のように、スポンサーがロボットをデザインした。

当初、「スーパーロボット」は戦うメカとして男性人気を得たが、『勇者ライディーン』（1975）はロボットと主人公の心が通じているような細やかな設定が盛り込まれ、はかなげな主人公や美形敵役が多く、女性ファンを獲得。『大空魔竜ガイキング』（1977）は複数の青年操縦者それぞれにファンがつき、キャラクターや声優人気に火がついた。ロボットを操るキャラクターが関心を集めるようになると、ストーリーも操縦者である人間のドラマにシフトしていった。宇宙に移住した「スペースノイド」と地球側の人間同士の戦いを描いた『機動戦士ガンダム』（1979）は言わずと知れた人気シリーズとなり、ロボットは戦いに使われる兵器＝「リアルロボット」と称された。『超時空要塞マクロス』（1982）は「歌」「アイドル」など新しい要素を取り入れ、『装甲騎兵ボトムズ』（1984）はハードボイルドな世界観を構築。戦いの場を舞台に複雑な人間関係や心理を描写する作風は、平成以後の『新世紀エヴァンゲリオン』（1995）『蒼穹のファフナー』（2004）などにも引き継がれていった。

昭和のロボットアニメを語る上では、とぼけた悪役がロボットを駆使して地球征服を目論むものの、必ずやつつけられる『タイムボカンシリーズ』（1973）や、少女型ロボット・アラレが巻き起こす騒動を描いた『Dr. スランプ アラレちゃん』（1981）も外せない。『ドラえもん』（1979～）も「ネコ型ロボット」だ。AIが登場し、昭和のアニメが描いた世界に現実が追いつこうとしている令和の時代、ロボットアニメがどのような世界を描くのか今後も目が離せない。

(2023.12)



【展示中の「ロボットアニメ」脚本】

『鉄腕アトム』

第 107 話「地球解放」の巻（1965/02/13）フジテレビ 1963/01/01～1966/12/31 全 193 話

脚本：辻 真先、鈴木良武、豊田有恒ほか 原作：手塚治虫

『マジンガーZ』

第 1 話 脅威のロボット誕生（1972/12/3）フジテレビ 1972/12/3～1974/9/1 全 92 話

脚本：高久進、藤川桂介ほか 原作：永井豪、ダイナミックプロ

『グレートマジンガー』

第 1 話 大空の勇者グレート・マジンガー（1974/9/8）フジテレビ 1974/9/8～1975/9/28 全

56 話 脚本：高久進、藤川桂介、安藤豊弘 原作：永井豪 ダイナミックプロ

『勇者ライディーン』

第 13 話 妖変美女シュラガの愛（1975/06/27）NET 1975/04/04～1976/03/26 全 50 話

脚本：高久進、五武冬史、辻真先ほか 原作：鈴木良武

『ゲッターロボ』 『ゲッターロボ G』

第 61 話 悪魔の島を攻撃せよ！（1975/7/17）フジテレビ 1975/5/15～1976/3/25 全 39 話

『超電磁ロボ コン・バトラーV』

第 1 話 コンバイン！どれい獣を倒せ（1976/04/17）テレビ朝日 1976/04/17～1977/05/28

全 54 話 脚本：辻真先、田口章一、五武冬史ほか 原作：八手三郎

『ヤッターマン』

第 1 話 出動だ！ヤッターワン（1977/01/01）フジテレビ 1977/01/01～1979/01/27 全 108

話 脚本：鳥海尽三、鈴木良武、山本優ほか 原作：タツノコプロ企画室

『闘将ダイモス』

第 2 話 謎の美少女エリカ（1978/04/08）テレビ朝日 1978/04/01～1979/01/27 全 44 話

脚本：辻真先 原作：八手三郎

『ドラえもん』

第 122 話 即席ジャングル（1981/02/05）テレビ朝日（第 2 作）1979/04/02～

脚本：辻真先、鈴木良武、山崎晴哉ほか 原作：藤子不二雄

『Dr. スランプアラレちゃん』

第 38 話 ミュージカル・シンデレラ（1982/01/06）フジテレビ 1981/04/08～1986/02/19

全 243+SP2 話 脚本：辻真先、井出たかし、雪室俊一ほか 原作・鳥山明

『超時空要塞マクロス』

第 18 話 パイン・サラダ（1983/02/20）／第 25 話 愛は流れる（1983/04/24）TBS/MBS

1982/10/03～1983/06/26 全 36 話 脚本：星山博之、富田祐弘、松崎健一ほか 原作：スタジオぬえ

『装甲騎兵ボトムズ』

第 1 話 終戦（1983/4/1）／第 29 話 二人（1983/10/14）テレビ東京 1983/4/1～1984/3/23

全 52 話 脚本：五武冬史、鳥海尽三、吉川惣司ほか 原作：高橋良輔

『巨神ゴーグ』

第 1 話 光る島（1984/04/05）テレビ東京 1984/04/05～1984/09/27 全 26 話

脚本：辻真先、塚本裕美子 原作：安彦良和

『機甲界ガリアン』

第 25 話 伝説の光芒（1985/03/29）日本テレビ 1984/10/05～1985/03/29 全 25 話

脚本：五武冬史、吉川惣司、鳥海尽三ほか 原作：高橋良輔

『機動戦士Ζガンダム』

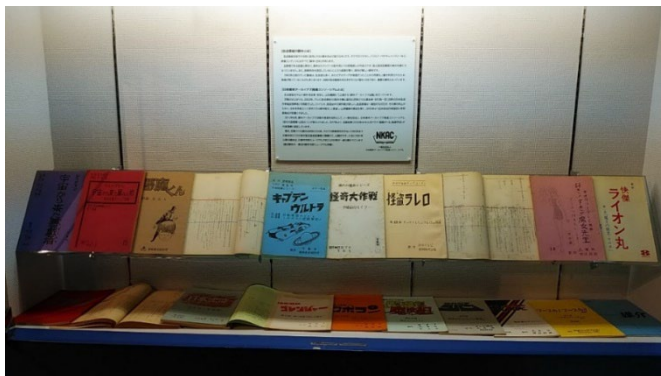
第 27 話 シャアの帰還（1985/09/07/第 50 話・終 宇宙を駆ける（1986/2/22）名古屋テレビ
1985/3/2～1986/2/22 全 50 話 脚本：遠藤明吾、大野木寛、鈴木裕美子ほか 原作：富野
由悠季

【過去の展示例】

「懐かしのテレビアニメ」（2020 年 1 月～6 月）



「特撮ヒーロー 光の国から永遠に・・・！」（2022 年 1 月～3 月）



■他館への脚本貸出

アニメを含む脚本は配布される数が少なく希少性があるため、他館からの貸し出し要請が多い。
令和5（2023）年度は下記の貸し出しを行った。

- ・放送ライブラリー「テレビとCMで見る1980年代！1978～1989メモリーズ」（2023.8.11～10.1）
- ・鎌倉市川喜多映画記念館「映画監督・是枝裕和のまなざし」（2023.10.7～2024.1.14）
- ・文化のみち二葉館「辻真先ワンダーランド」展（2024.2.4～3.10 開催予定）

【事業の流れ】

『アニメ脚本・脚本家データベース』概要図

